

天和四子年六月

一町中にて屋形船むざと作り申間鋪候、向後新規に作り度と存候者は前方町年寄江相断、指圖次第可仕候若無断作候者於有之は、可爲越度候條、此旨相守、違背仕間鋪者也、

六月

元祿二巳年六月

一屋形船前々御定之通寸尺少も大に仕間敷候、尤定之數之外、造り申間敷候、并船貳艘も三艘も

一ツにもやひ、自由致候儀、堅仕間敷事、略○中

右之趣可相守、若相背におゐては、急度曲事可申付者也、

六月

元祿十四巳年七月

一先年屋形船之寸尺相極候處、定之外大キ成屋形船有之様ニ相聞候間、向後左様之船及見候者、相改候上、船取上之、尤船主曲事可申付候、以上、

七月

寶永三戌年八月

一今度町中屋形船之員數百艘ニ相定、船持共江札壹枚宛渡置候間、右之外壹艘も所持仕間敷候、若此旨相背候者有之候は、其者は不及申、家主迄急度可申付候、自然百艘之内、減少致候は、又々相加へ、百艘之都合に致候間、其節屋形船致所持度と存候者は、可訴出、吟味之上、可申付候、以上、

八月

〔享保集成絲綸錄 四十九〕正徳三巳年三月